

Rio

リオ
豊田市矢作川研究所 月報

CONTENTS

- 矢作川の哺乳類
- タヌキの研究について
- 古巣水辺公園の鳥類
- 平戸橋周辺の自然観察(4)
- 今月の一枚
- 研究所の調査風景
- 逢妻女川のカルガモ親子

2001 August
No.40

豊田市矢作川研究所

〒471-0025

愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F TEL 0565-34-6860 FAX 0565-34-6028
homepage <http://www.hm.aitai.ne.jp/~yahagi/index.html> e-mail yahagi@hm.aitai.ne.jp

*Rioはホームページ上でもご覧になれます

矢作川の哺乳類

米澤里美・恩地 実

《2001年春季調査結果》

今年度矢作川の河川敷で小哺乳類（ネズミ・モグラ類）の生け捕り罠による調査（標識再捕法）を1回3泊4日で四季にわたり行う予定です。3泊で行う事により個体数の推定が出来ます。春の調査の結果（表）から矢作川のアカネズミを代表とする小哺乳類の特徴を簡単にのべたいと思います。

今回の調査結果の特徴は、アカネズミで同一個体が同一罠で捕獲されたり、同一罠で複数個体が捕獲されている事です。個体数が多い場合にはよく起こる事ですが、今回のように個体数が少ない場合としては珍しいです。その理由としておそらく'00年9月の豪雨により土砂が堆積され、環境が破壊されたためではないかと考えられます。

矢作川での小哺乳類調査は'96年度から行われており、アカネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ヒメネズミ、ヒミズ、ジネズミが捕獲



されています。'96、'97年度のアカネズミの捕獲個体数も少なくありません。そのため矢作川の河川敷は小哺乳類にとっては良好な環境だと考えられます。しかし、冠水の影響を受けているので、その程度や回復の過程を調べていきたいと思っています。

《都市近郊における河川敷の意義》

都市近郊の河川敷に棲息する哺乳類としては小哺乳

表・矢作川小哺乳類調査結果 ～2001年春季～

調査地	個体番号	性別	発育段階 SA: 亜成体 A: 成体	2001.4.1	2001.4.1	2001.4.2	2001.4.2	2001.4.3	捕獲日
				8:00	21:00	8:00	21:00	8:00	
①	5000	♂	SA	30-1	30-1			30-1	捕獲位置 体重 [g] : 繁殖状況 (+ = 繁殖可能・- = 繁殖不可能)
				27:-	28:-			26:-	
	死亡個体	♂	A			30-1			
	0300	♀	A					0-1	
								26:+	
②	3000	♀	A			240-1	240-1		
						29:+	32:+		
③	死亡個体	♂	A	40-1					
				38:+					
	4000	♀	A	150-1			150-1		
				41:+			42:+		
	2000	♂	A			40-2			
						37:+			
	0200	♀	A					10-2	
								30:+	
③'	0010	♀	A			2		5	
						32:-		32:-	

各調査地点に基点より10m間隔で240mのラインを2本引く。そのライン上に10m間隔で罠を設置。罠数各50個。面積0.5ha
① 古巣水辺公園下流の天王川合流点を基点に上流へ（竹林）
② お釣土場入り口を基点に下流へ（広葉樹林、竹林）
③ 竜宮橋上流右岸約250mを基点に上流へ（草地）
③' ③の調査地付近の使用と思われる巣穴 罠数15個
捕獲個体は全てアカネズミであった。



アカネズミ (恩地 実氏 提供)

類以外にキツネ、タヌキ、イタチ (矢作川でも確認されている) などがいますが、それらは河川敷だけでなく住宅地とも行き来している場合が多いです。しかし、小哺乳類は人家近くには家ネズミ (ドブ・クマ・ハツカネズミ) がいるため棲息できません。そのため都市

近郊においては河川敷のみが小哺乳類の棲息場所になっている場合が多く、孤立している場合、移入がおこりにくいので一度絶滅すると回復が非常に困難です。

アカネズミは雑食で昆虫から果実までいろいろ食べます。また、大・中型の哺乳類や猛禽類、ヘビ類などの餌になっています。つまりアカネズミが棲息しているところは、その餌である植物や昆虫が豊富で、さらにネズミの天敵も棲むことができる自然環境が保全されたところであると言えます。

都市近郊では唯一小哺乳類が棲息できる可能性のある河川敷をアカネズミが棲息できる環境として残していきたいものです。

(よねざわ さとみ・おんち みのる、
兵庫県 甲南高校)

タヌキの研究について



千々岩 哲

4月から矢作川の河川敷に暮らすタヌキについて研究を始めました。河川敷タヌキに興味を持ったのはここ数年河川の哺乳類調査に関わったことがきっかけです。

矢作川ではまず調査重点地域を決めるため、平戸橋～竜宮橋の間約8キロの兩岸を歩き、足跡や糞などを探しました。そして貯木場跡や平成記念橋北部、竜宮橋北部などでタヌキの生活痕を多く見つけました。特に川辺、川岸近くに足跡がよく見られます。

「この原因は何故だろう？」タヌキ達は雑食なため人の利用が多い河川敷では人が捨てる残飯などを食べていることが予想されます。もともと昆虫類や果実などをよく食べている動物ですが、どの河川でもやはり水辺で多くの足跡を見ます。恐らく水辺に打ち上がる魚類 (死骸) や貝、カニ、カエル類などを

食べているのではないかと考えています。これを知る為に、糞を集めて何を食べているか調べる計画です。

昨年の大雨で矢作川にも多くの砂礫が流れてきたと聞きました。竹も所々大きく倒れています。毎月河川敷を歩き調査していますが、暑くなる季節が迫るにつれて辛さを感じることもしばしばです。しかし6月には竹の間伐が進み、大変感謝しております。たくさん竹の出現や一ヶ月で大きく伸びる草木に生命の躍動を感じます。この恵みの季節にタヌキ達も新しい命を育んでくれていると良いのですが、早く仔タヌキ達の足跡に出会えることを期待して、また敷地を負けずに歩きます。

(ちちいわ あきら、景生保全研究所)



タヌキ (平林孝夫氏 提供)

● 古岸水辺公園の鳥類 ●

猪狩敦史

最初は水量の非常に多い時期に訪れたため、多様性が少ないなあというのが印象。しかし、水量が減ってくると、それはそれはたくさんの鳥たちが集まりました。古岸水辺公園ではヤマセミを観察することができます。まさか、こんなところでという感じでした。ヤマセミをはじめ、カワガラス、セグロセキレイの幼鳥が近寄り、中洲を見るとコチドリが地面に営巣し、上空にはツバメ、コシアカツバメ、イワツバメが乱舞していました。とても、豊かな環境だなあと思い直し、調査している今日この頃です。



セグロセキレイ
(田中 蕃 撮影)

水辺公園は鳥類を視点にしたときには豊かな環境です。それは、河川断面をとったときに良く判ります。本当に多様な鳥類が分布していました。

残念なことはバーベキューに訪れる人々の中に、川を汚し、ゴミを捨てていく人がいることです。その残飯にムクドリ、スズメが集まり、生態系が崩れていく、なんて考えてしまいます。夏場に差し掛かり、とても暑い川辺ですが、楽しく調査をさせていただいています。

(いがり あつし、鳥類調査員)

平戸橋周辺の自然観察(4)

山原勇雄

* 前回より続く *

モウソウチク林にはクワ、イロハモミジの樹木があり、林床にはチヂミザサ、ツルウメモドキ、カラムシ、ノブドウ、ヘクソカズラ、ヒメクズ、ヤブガラシ、ジャノヒゲ等が混生していました。

また平戸橋一区公民館周辺では、数年前調査したときと変わらない植物が迎えてくれました。公民館の南側の空き地にはホトケノザ、セイタカアワダチソウ、オオイヌノフグリ、ヤブガラシが多く見られ、川岸へ下る斜面にはヒヨドリジョウゴ、アメリカフウロ、アレチヌスビトハギやセンダングサ、アケビ、ヤブジラミ等を確認することができました。



ホトケノザ
(藤井泰雄氏 撮影)



平戸橋西詰の橋の下をくぐり抜けて岩場に向かう遊歩道では、東海豪雨の爪跡が各所に残されており、濁流で堆積した砂や倒木に足を奪われそうになりました。道沿いの斜面には大木(大きくて葉を確認できないが、多分エノキ)があり、その下にはヤブガラシ、フジ、ママコノシリヌグイ、イシミカワなどのつる植物が見られました。洪水に痛手を受けた植物たちの悲しみが感じ取れるようでした。

数年前から調査を行ってきた場所を豪雨後に再び調査したことで、植物が力強く復活するさまを見ることができ、深い感銘を受けました。

(やまはら いさお、平戸橋自然観察『草だらけの会』)

オオイヌノフグリ (藤井泰雄氏 撮影)



研究所の 調査風景

豪快な筏乗りの姿を教
えていただきました。
(小川)

7月11日(水)

アユの実験を行うため緑陰歩道橋
の水路の水質を測定しました。鮎が
槽むためにはとけ込んでいる酸素(溶
存酸素)が少ないことが判明しまし
た。酸素を多く取り込むために噴水
状の装置の設置を検討しています。
(山本)

6月16日(土)

扶桑町にお住いの古井まさ子さん
への聞き取り調査を行いました。ま
さ子さんのお父様は、矢作川におい
て昭和初期まで活躍していた「筏師^{いわたし}」
でした。古いお写真を見せていただ
きながら、山の木々を受け取って筏
に組み、勇敢に川を下る、そしてそ
の給金を一夜の飲代に使ってしまう



逢妻女川のカルガモ親子
生活排水・農業排水で大変汚れている
逢妻女川の落差工下を遊泳するカルガ
モ親子の9羽。将来、この親子に影響
がなければよいが。
(2001.6.18 豊田市立堤小学校前
梅村諄二氏 撮影)

編集後記

皆さま、暑中お見舞い申し上げます。お日様が高くなるとともに気温、湿度も急上昇、
矢作川の清流が恋しい季節になりました。さて、今月号には矢作川の古川を生活拠点とする、
哺乳類・鳥類の調査報告を掲載いたしました。矢作川へと足を運ばれる機会がありましたら、そんな「仲間達」
のことを思い出していただけたらと思います。(小)

ご意見・ご感想をお寄せください